いっしょに考えよう

いのちの大切さ

Vol.2

～子どもたちが幸せになれる明るい社会をつくる～

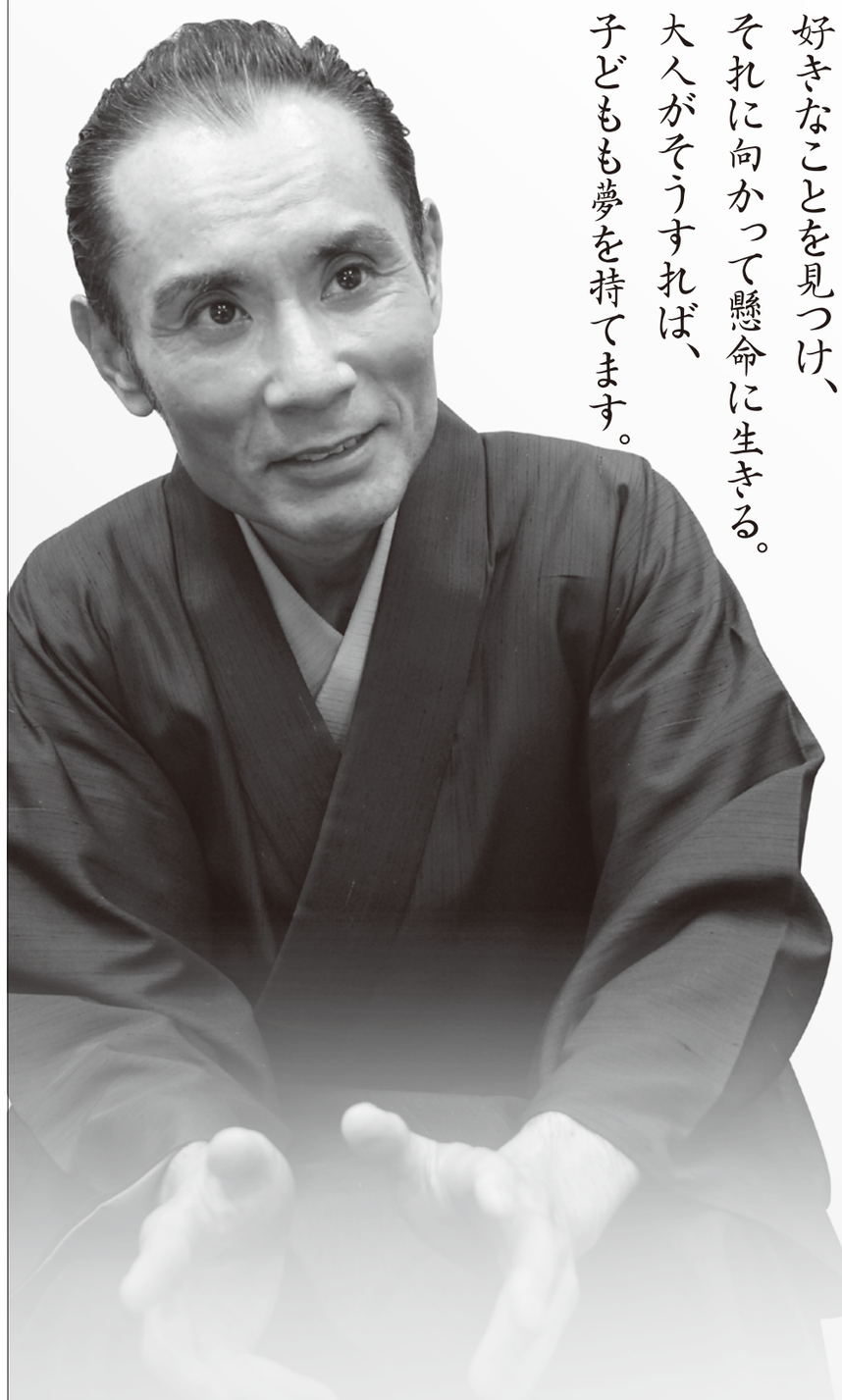
子どもたちの明るい未来のために

俳優・画家 片岡鶴太郎さんに聞く

芸人、俳優、ボクサー、そして画家と、常に新しいことに挑戦し続ける片岡鶴太郎さん。好きなことを発見して、それに向かって突き進むことで、強くなっていく自分を実感したと言います。

昨今の子どもの問題は、大人と子どもの関わり方が大きく影響しているという片岡さんに、どうした ら子どもたちが明るい未来を描けるのか、お話をうかがいました。皆さんと一緒に考えてみたいと思います。

写真提供 近代映画社



好きなことを見つけ、それに向かって懸命に生きる。大人がそうすれば、子どもも夢を持てます。

――今の子どもを取り巻く環境について、片岡さんの子どものころと比べて、どのように感じていらっしゃいますか？

僕は下町で育ちましたが、子どものころは親も厳しかったし、近所や公共の場所で他人の子どもをしかりつける大人がいましたね。地域が一体となって子どもを育てていたとでも言いましょうか。商店街の酒屋のおじさんは、親よりよっぽど怖い存在でした。子どもたちは、そうしていろいろな大人と接していくうちに、大人や社会を「見る目」を養っていくと思うんです。ですから、家と学校以外で大人と付き合うことが減ってしまったことは、子どもにとってたいへん不幸なことだと思います。そのせいか、今の子どもたちには、〝公共の場〟という意識が薄れていることを感じます。電車の中で騒いだり、化粧をしたり。しかも、悪気がない。子どもの問題の根源のひとつは、そこにあるんじゃないかと思いますね。

でも、今だって、地域に子どもを想う大人はいっぱいいるわけですから、そんな人たちの想いと力が発揮できるような町づくりができるといいですね。いろいろなタイプの大人と接することで、子どもたちも多様な将来像を描くことができるようになるわけですから。

――では現代の社会の中では、どういう子育てが必要なのでしょうか？

江戸時代の子育ては、子どもを大切にし、しつけるという点でよくできていたと聞きます。たとえば、はじめはとにかく子どもの要求をなんでも聞く。一見、甘やかしとも思えますがそうではなく、〝愛されている〟という実感により情緒が安定するというのです。そして、六歳までにしつけをしなさい、と。ここできちんとしつけておけば、まさに服を仕立てるときの「仕付けの跡」のように身につくんだそうです。そして、九歳までに世辞が言えるように、十二歳までに文が書けるように、十五歳では道理がわかるように、と。昔は十五歳で一人前の大人でした。もっとも、人生五十年の時代ですし、社会も変化していますから、これがそのままは当てはまらないでしょうけど、今の親たちにも、そんな感覚が必要ではないでしょうか。いじめの問題にしても、大人が誰かの悪口を平気で言うから、子どもはいじめを悪いことだと思わなくなってしまうんです。

――父親としての片岡さんの、座右の銘みたいなものはありますか？

たとえ自分の子であっても決して私物ではない、ということですね。親と子が互いに尊重しあって別の人格を持った一人の人間として接することで、子どもには自立心が生まれる。これを忘れてしまうと、時に子どもの生きる力や夢を奪ってしまうことになりかねない。子どもが、一度きりの自分の人生は自分で切り開いていくんだということに気付けるよう、私はずっと意識して育ててきました。

――片岡さんは、子どもに夢を与え、生きるすばらしさを感じさせるために何が大切だと思われますか？

人は誰しも、自分を認めてもらいたいという欲求を持っていると思うんです。だからこそ、自分がほんとうにやりたいこと、好きなことを大切にしてほしいと思っています。日本人は、好きなことは〝快楽〟だからダメ、辛いことは修業であり、その結果として生計が成り立つのだと思ってしまいがちですが、そんなことはありません。好きなことだからこそ頑張る力も湧いてくるんです。もし学校でいじめにあっても、「自分はダメなんだ」としょげるのではなく、〝やりたいこと〟のほうにしっかり目を向けていけば元気も出ます。

好きなことを発見することの大切さは、実は、大人も子どもも同じです。僕は三十二歳でプロボクシングのライセンスをとり、四十歳で絵を描き始めました。数年前、京都へ行ったときに茶道と出会い、始めました。まさに「好きこそものの上手なれ」ですね。大人自身も好きなことを見つけて人生を謳歌する、それは、子どもに夢を与え、生きるすばらしさを感じさせることにつながるのではないでしょうか。

片岡 鶴太郎（かたおか つるたろう）

1954年東京生まれ。72年片岡鶴八に弟子入り。声帯模写で独り立ち後、81年「オレたちひょうきん族」にレギュラーとして出演するなど、多くのテレビ番組で活躍。88年プロボクシングのライセンスを取得。俳優としても活躍し、日本アカデミー賞最優秀助演男優賞、毎日映画コンクール新人賞、ブルーリボン助演男優賞などを受賞している。画家としても活躍中。草津片岡鶴太郎美術館などで作品を所蔵、公開している。

写真提供 近代映画社

スマホを安全に使いましょう！

フィルタリングを利用して、家庭内で十分に話し合い、子どもが実行できるような無理のない具体的なルール作りを考えてみましょう。

子どもがスマホを安全に使うためには？

スマホには複数の通信手段があり、それらに応じた３つのフィルタリングが必要です。

①携帯電話会社が提供する回線（３G、ＬＴＥのフィルタリング）
②無線ＬＡＮ（Wi-Fi）のフィルタリング（フィルタリングソフト）
③アプリのフィルタリング

※詳細は販売店にお問い合わせください。

人権擁護委員による特設相談の日程

地域区分	月日	開設場所
京都市・乙訓※	8/8（木） 9/12（木）	京都府庁１号館府民総合案内・相談センター（京都市上京区）
山城	8/15（木）	京都府田辺総合庁舎（京田辺市田辺明田）
	9/19（木）	京都府木津総合庁舎（木津川市木津上戸）
南丹	9/5（木）	京都府亀岡総合庁舎（亀岡市荒塚町）
	10/3（木）	京都府園部総合庁舎（南丹市園部町小山東町）
中丹	8/6（火） 10/1（火）	京都府綾部総合庁舎（綾部市川糸町）
	9/3（火）	京都府福知山総合庁舎（福知山市篠尾新町）
	9/5（木） 10/3（木）	京都府舞鶴総合庁舎（舞鶴市字浜）
丹後	8/14（水）	京都府宮津総合庁舎（宮津市字吉原）
	9/11（水）	京都府峰山総合庁舎（京丹後市峰山町丹波）

いずれの会場も開設時間は午後１時～午後４時です。
※京都市・乙訓会場は予約が必要です（電話　075-414-4235）。
　その他の会場については予約は不要です。
■京都市消費生活総合センターでも特設相談を開設しています。
８／22（木）・９／26（木）　午後１時～午後４時（予約が必要）
予約・お問い合わせ（電話　京都いつでもコール 075-661-3755）

きょうと子育て応援パスポートをご存知ですか？

きょうと子育て応援パスポートとは？

・きょうと子育て応援パスポート事業は、子育て家庭を社会全体で応援するため、企業・店舗等、京都府、市町村が協働して取り組んでいます。
・子育て家庭にパスポートを発行し、協賛店舗がさまざまなサービスを提供することを通して、子育てを応援する取り組みです。
・ステッカーが掲示された協賛店でパスポートを提示すると、各店独自のサービスを受けることができます。

誰が使えるの？

・18歳未満のお子さんがおられる家庭
・妊娠中の方がおられる家庭

ケータイ版パスポート入手のしかた

①サイトへ Go！ → ②利用規約に同意 → ③ユーザー情報を入力 → ④表示されたパスポートを保存 → ⑤毎回お店で見せるだけ！

トップページにアクセス

※携帯電話のバーコード読み取り機能で上記を読み取ります。

※「画面メモ」など機種によって操作が異なります。

※携帯電話をお持ちでない場合は、市町村窓口などでカード型のパスポートも配布しています。

■ PC サイト　http://www.pref.kyoto.jp/kosodateouen/
■ケータイサイト　http://www.pref.kyoto.jp/i/kosodateouen/

子育て応援パスポート　検索　click

京都府健康福祉部こども未来課 京都市上京区下立売通新町西入薮ノ内町
TEL：075-414-4581　FAX：075-414-4586　MAIL：jido@pref.kyoto.lg.jp

第１１回 京都発！手紙（メール）でむすぶ家族ふれあい大賞 募集のお知らせ

家族の絆、いつまでも大切なおもいを手紙（メール）にのせて
少子化や核家族化の進行などにより、家族関係が希薄化している今日。
家族に対する素直な気持ちを手紙によって伝えてください。
手紙を通して、たくさんの家族の輪がつながりますように。

【募集内容】
親子、兄弟姉妹、祖父母と孫、夫婦など同居、別居を問わず家族間で交わされた往復の手紙、e - メールを募集（それぞれ概ね 50 文字以内）

【テーマ】『家族』
【応募資格】　どなたでも
【募集期間】　平成 25 年７月８日（月曜日）から９月 30 日（月曜日）まで (当日消印有効)

【応募方法】
手紙を出した人と返事を出した人（または手紙をもらった人）の関係、それぞれの氏名・性別・年齢、連絡先（応募者のどちらか一方）の住所、電話番号を明記し、専用応募はがき（募集チラシに掲載）・封書等の郵送、FAX、インターネット（応募フォーム・e - メール）でご応募ください。

※往復の手紙を２通セットでご応募ください。
※手紙は原本でも、はがき等に写しかえたものをご応募いただいても構いません。
※手紙を出した人と返事を出した人、両者合意の上でご応募ください。
※ご応募いただいた手紙にまつわるエピソード等を簡単にお書きください。
※応募作品の著作権は主催者に帰属することとし、作品は返却しません。
※他のコンテスト等へ未発表のものに限ります。

【応募およびお問い合わせ先】
京都府健康福祉部こども未来課
「京都発！手紙（メール）でむすぶ家族ふれあい大賞」募集係
京都市上京区下立売通新町西入薮ノ内町
ＴＥＬ：075-414-4727
ＦＡＸ：075-414-4586
MAIL：jido@pref.kyoto.lg.jp

ハートフルコンサート開催のお知らせ

入場無料

日時
8月5日(月) 16：00～18：30

場所
京都駅ビル
駅前広場特設ステージ

ⓒ京都府 まゆまろ 2554008

内容
■ミニコンサート
・近藤知世（歌手）
・ジュスカ・グランペール（ギター＆バイオリンのユニット）
・京都市立芸術大学有志による弦楽四重奏
・柏野小学校の生徒による合唱
■人権啓発イメージソング「世界がひとつの家族のように」の合唱

学生ボランティアによる
『「世界がひとつの家族のように」広め隊』募集

鮎川めぐみさんと一緒に、学校などを訪問して合唱したり、学園祭の音楽イベントや、ブース出展、街頭での啓発キャンペーンの企画・運営をしてみませんか？隊員になると、フィールドワークなどによる人権講座も受講できます。応募は、メールか電話で問い合わせ先まで！

» 問い合わせ先
京都府府民生活部人権啓発推進室
京都市上京区下立売通新町西入薮ノ内町
ＴＥＬ：075-414-4271　FAX：075-414-4268
MAIL：jinken@pref.kyoto.lg.jp